

病院の実力

～宮城編 4

病気別に医療機関ごとの治療実績を伝える「病院の実力」。今回は、心臓病の狭心症や心筋梗塞を治す「心臓カテーテル治療」を取り上げた。

全国的にみても有数の治療実績を誇る仙台厚生病院心臓血管センター（仙台市青葉区）では、心臓カテーテル治療を担当する循環器科に約20人の医師が所属する。充実した人手を生かして、夜間、休日も常時2人当直体制で、急性心筋梗塞などの救急患者を積極的に受け入れている。

一覧表の「みやぎ北部」「同東部」「気仙沼市立」の3病院も、医師を派遣する関連病院だ。

厚生病院が1年間に施行する1300件前後のカテーテル治療のうち、約300件は心筋梗塞を起こした人の緊急的処置。直近6年間の患者死亡率は、病院到着時に心停止していたケースも含め、4・957・7%だった。

心臓カテーテル

残りの約1000件は、狭心症などの患者に対して、計画的に施術したケース。心臓の冠動脈がほとんどふさがっているような重症事例でも、治療成功率は90%を超える一方、最近の治療関連死は2005年と06年の各2件にとどまる。

循環器科の井上直人主任部長は「心筋梗塞は、発作後3時間以内に治療を始め、2日程度でも退院可能だが、施術後1週間は、血栓が発生して血管が詰まるリスクが比較的高いことから、厚生病院では1週間前後の入院を勧めている。退院後6～8か月の時点で、ステント（特殊な金網状の筒）を入れた患部に再狭窄が起きていないことを確認し、完治と判断する。

仙台厚生病院 施術を家族に公開

られるかが、予後に大きく影響します。全体としては、胸を張れる治療成績と考えています」と話す。先進医療にも意欲的に取り組み、昨年、レーザーで冠動脈の詰まりを解消するレーザーカテーテルを導入した。

厚生病院の特徴の一つは、多くの患者の要望に応えるため、「地域医療支援病院」の認定を受け、高度な専門治療が必要な急性期医療に特化していること。受け入れるのは原則、地域の医療機関から紹介された患者で、退院後は、その医療機関に再び通ってもらう。紹介状がない場合、初診時に別

途費用がかかる。カテーテル治療は、1泊2日程度でも退院可能だが、施術後1週間は、血栓が発生して血管が詰まるリスクが比較的高いことから、厚生病院では1週間前後の入院を勧めている。退院後6～8か月の時点で、ステント（特殊な金網状の筒）を入れた患部に再狭窄が起きていないことを確認し、完治と判断する。

もう一つの特徴は、積極的に情報を公開している点。カテーテル治療の際、患者の家族はガラス越しに施術の様子を見守ることができる。井上主任部長は「医療事故では、密室性が問題視されることが多い。家族に見られて緊張しないと言えはウソになるが、ガラス張りにしておけば、万一、事故があった時も理解してもらいやすい」と説明する。

病院の実力「心臓カテーテル」
医療機関別2006年治療実績

医療機関名	治療件数
仙台厚生	1288
みやぎ北部循環器科	737
みやぎ東部循環器科	413
東北厚生年金	309
大崎市民	259
仙台オープン	256
県立循環器・呼吸器病セ	246
気仙沼市立	242
仙台徳洲会	167
石巻赤十字	158
坂総合	140
仙台循環器病セ	136
東北大	128
みやぎ県南中核	121
国・仙台医療セ	105
仙台市立	96
東北公済	75
公立刈田総合	66
真壁	54
星総合	328
いわき市立総合警城共立	315
太田西ノ内	293
わかまつインターベンションク	250
総合南東北	201
竹田総合	169
大原医療セ	142
会津中央	139
福島南循環器科	127
白河厚生総合	114
須賀川	112
寿泉堂総合	101
県立医大	68
公立相馬総合	63

都道府県社会保険事務局に情報公開請求。「セ」=センター、「国・」=独立行政法人国立病院機構、「ク」=クリニック
(治療件数50件以上の病院を掲載)



危険な「メタボ」

狭心症や心筋梗塞を引き起こすのは、動脈内にコレステロールなどが沈着する動脈硬化だ。動脈硬化が起きやすい「メタボリックシンドローム」は、腹囲が基準値(男性85センチ、女性90センチ)以上で、かつ血圧や血糖値、脂質の異常——という三つの危険因子のうち、二つ以上がある状態を言う。該当する場合は生活習慣を見直すことが第一だ。

動脈硬化防止

生活習慣見直しを

狭心症などが疑われる場合には、血管が狭くなっているかどうかを調べる「心臓カテーテル検査」が行われる。足の付け根などの血管から細い管(カテーテル)を入れ、その先を心臓の患部まで届かせ、造影剤を入れて調べる。検査自体は1～3時間ほどで終わるが、安静にする時間が必要なことから、1泊2日になることが多い。最近では、人体の輪切り画像を撮影するマルチスライスCT(コンピュータ断層撮影)による心臓の画像診断を行う医療機関が増えている。

開胸手術の場合も、心臓カテーテル治療で、各病院が突然の出血など緊急事態に対応できるようにするには、多くの治療をこなして技術を身につける必要がある。

治療には、胸を開いて詰まった血管の迂回路を作るバイパス手術もある。最近ではカテーテル治療に比べて比重が下がりつつあるものの、手術の方が望ましい場合もある。次回の「病院の実力」では、手術における実力病院を紹介する。

※全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。次回は4月6日「心臓外科手術」の予定です。